

## 第5学年 図画工作科学習指導案

指導者 ○○ ○○

### 1 単元 「比べてみよう」

### 2 単元について

本単元は、「B鑑賞」の領域であり、親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分達の作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めることをねらいとしている。これまで児童は、低学年では身の回りの作品などを、中学年では身近にある作品などを鑑賞してきた。それらの経験を踏まえ、本単元では、我が国や諸外国の親しみのある美術作品を鑑賞し、対象がもつ形や色、表現する人の思いや願い、目的、表し方の工夫などについて話し合い、作品に対する自分の見方や感じ方を深める資質・能力を育成していく。なお、この学習は、中学校の美術作品などの鑑賞や、生活の中の美術の働きや美術文化についての学習につながる。

本学級の児童は、低学年では、自分たちの作品や造形活動で用いられる材料、身の回りの形や色などの造形的な面白さや楽しさなどを自分なりに味わってきた。中学年では、表現に関連がある作品や日用品、伝統的な工芸品や玩具なども鑑賞の対象に加え、それらの造形的なよさや面白さなどを自分なりに味わったり、イメージを見直したりしてきた。第5学年では、我が国の文化、時代、風土、作者の個性などが関わって創造された美術作品も鑑賞の対象に加え、それらの造形的なよさや美しさなどを自分なりに味わうことを行ってきた。これらの鑑賞の経験から、作品に対する自分の見方や感じ方を深める能力については、対象に関わることによって生じた感情や気持ち、他者と共有できるよさや自分なりに面白いと思うことなどについて話し合い、見方や感じ方の違いを味わうことができるようになってきている。しかし、対象がもつ形や色などのよさや美しさの要素である表現の目的、表現に見られる表し方の工夫などに着目するまでには至っていない。学習の進め方については、これまでに、鑑賞の対象の形や色などを根拠に理由付けし、感じたことを表現することを経験しているが、主張・根拠・理由付けの筋が通っていなかったり、説得力が弱かったりと、筋道立てて自分の考えを述べる力は十分とは言えない。

指導にあたって、「出会う」段階では、2枚の絵「ゴルゴンダ」と「リズムカルな森のラクダ」を提示する。どちらも、現実にはない世界を描いている。そのため、児童が、作者の意図を読み取りたくなり、主体的に鑑賞することができる考える。また、描かれている対象や表し方は違っているものの、構図が似ているので、表現の特徴を比べたくなることが期待される。これらのことから、2枚の絵を提示することによって、それぞれの特徴を見つけることへの興味関心を高めたい。「追究する」段階では、まず、似ているところや違うところを問うことによって1枚の絵を見るだけでは気付きにくい特徴（奥行き・構図・形・並び方・色など）を捉えさせる。比べることによって見えてきた特徴は、板書によって「奥行き・構図・形・並び方・色」などに整理しておく。次に、心を惹かれる絵について、感じたことや思ったことを記述させる。ここで思考モデルを使わせることによって、絵から感じたことや思ったことは、絵の特徴（奥行き・構図・形・並び方・色など）が根拠になっていることを理解させる。その後、心を惹かれる絵について、感じたことや思ったことを交流させる。このことによって、自分の見方や感じ方が友達に共有されていく喜びや互いの感じ方の違い、作品の理解が深まる面白さを味わわせたい。「生かす」段階では、より主体的な鑑賞活動を促すために、児童にそれぞれ好きな作品を1つ選ばせ、互いが感じたことや思ったことを交流する活動を仕組む。このことにより、前時で培った作品に対する自分の見方や感じ方を深める資質・能力を生かすとともに、児童を取り巻く生活の中にある様々な造形に目を向けさせたい。

### 3 単元の目標

- 作品のよさや違いを見つけることから、形や色などの造形的な特徴を理解することができるようにする。 (知識及び技能)
- 作品を比べて似ているところや違うところから、表現の意図や特徴などを感じ取ることができるようにする。 (思考力・判断力・表現力等)
- 気づいたことや感じたことを話し合うことから互いの感じ方の違いを味わい、主体的に鑑賞しようとする態度を養う。 (学びに向かう力、人間性等)

### 4 評価規準

ア知識・技能	イ思考・判断・表現	ウ主体的に学習に取り組む態度
作品のよさや違いを見つけることから、形や色などの造形的な特徴を理解している。	作品を比べて似ているところや違うところから、表現の意図や特徴などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	気づいたことや感じたことを話し合うことから互いの感じ方の違いを味わい、主体的に鑑賞しようとしている。

### 5 単元計画 (2時間)

段階	時	目標	学習活動	評価規準
出会う・追究する	1 本時	表現の意図や特徴を感じ取り、感じたことや思ったことを書くことができる。	○ 2枚の絵を比べて、感じたことを伝え合う。  <b>思考モデル</b> 【主張】 どちらの絵に心を惹かれるか 【根拠】 表現の特徴 【理由付け】 作品に対する解釈	表現の特徴を根拠にして、作品から感じたことや想像したことを記述している。 【思・判・表】
生かす	2	対象がもつ形や色などの造形的な特徴を理解し、気付いたことや感じたことを進んで話し合うことができる。	○ 互いに1枚ずつ選んだ好きな絵を比べて、絵から感じたことを伝え合う。  <b>思考モデル</b> 【主張】 どの作品に心を惹かれるか 【根拠】 表現の特徴 【理由付け】 作品に対する解釈	2枚の絵に描かれているものの形や色など造形的な特徴を理解している。【知・理】 気づいたことや感じたことを話し合うことから互いの感じ方の違いを味わい、主体的に鑑賞している。【態度】

6 本時（1／2時）

○ 主眼

2枚の絵の共通点や差異点を話し合うことを通して、表現の意図や特徴などを感じ取ることができる。

○ 準備 2枚の絵、ワークシート、アートカード

○ 展開

過程	学習活動	○手立て 【】 評価	
見 通 し を も つ	1 2枚の絵を見ることによって、本時学習のめあてをつかむ。	○ 2枚の絵を提示し、似ているところや違うところを問うことによって、絵を理解しようとする事への興味関心を高め、本時学習のめあてをつかませる。	
考 え を も つ	<p>(めあて) 2枚の絵を比べて、心惹かれる絵を伝え合おう。</p>	<p>【評価のものさし】</p> <p>A 根拠を2つ以上書くことができる。</p> <p>B 根拠を1つ書くことができる。</p>	
		<p>2 2枚の絵の似ているところやちがうところを考える。</p> <p>〈同じところ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の人も、丸い物も、大中小の大きさで、たくさん描かれている。</li> <li>・男の人も、丸い物も、横向きに見ると、同じ大きさの物が並んでいる。</li> </ul> <p>〈ちがうところ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の人は、等間隔に並んでいるが、丸い物は、等間隔ではない。</li> <li>・浮いている感じがするところと、地面に立っている感じがするところ。</li> <li>・本物みたいに描いているところと、何を描いているのかよく分からないところ。</li> <li>・色を絵の具で塗っているみたいなどころと、クレパスで塗っているみたいなどころ。</li> </ul>	<p>○ 2枚の絵を比べさせることによって、1枚の絵を見るだけでは気づきにくい特徴（奥行き・構図・形・並び方・色など）を捉えさせる。</p> <p>○ 絵のどこに着目し、どのように解釈したのかを視覚的に捉えさせるために、着目した点と感じたことを整理しながら板書する。特に、比べることによって見えてきた特徴は、「奥行き・構図・形・並び方・色」などに分けて書く。このことによって、思考モデルを使う際、これらが根拠となることに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 児童から、作品の背景や作者などについて尋ねられた際は、情報を与える。</p>
		<p>3 心を惹かれる絵について感じたことを表す。</p> <p><b>【根拠を基に考えを表現する活動】</b></p> <p>(1) 心を惹かれる絵について、考えをつくる。</p>	<p>○ 感じたことや思ったことを説明することができるように「思考モデル」を用いて考えをつくらせる。その際、主張・根拠・理由が、何にあたるのかを確認する。</p> <p>(主張) どちらの絵に心を惹かれるか                  (根拠) 表現の特徴                  (理由付け) 作品に対する解釈</p>

<p>考えを 広げ 深める</p>	<p><b>【期待する児童の表現】</b> 私は、左の絵に心を惹かれました。 構図に着目すると、右の絵とは違って、上と右と下の男の人は、画面からはみ出ています。左の赤い屋根を見ると、陰だけが見えていて、その左側にも男の人がいることが分かります。これらことから、男の人は、画面の外まで、たくさんいるような感じがするからです。</p>	
	<p><b>【期待する児童の表現】</b> 私は、右の絵に心を惹かれました。 並び方に着目すると、左の絵とは違って、木の間隔は、一定ではありません。このことから、まるで、ピンポン玉が弾んでいるようなかわいい感じがするからです。</p>	
	<p><b>【期待する児童の表現】</b> 私は、右の絵に心を惹かれました。 構図に着目すると、画面が横線で区切られています。形に着目すると、左の絵とは違って、抽象的です。これらことから、小さい子どもが壁に描いた落書きみたいでかわいく感じたからです。</p>	<p><b>【評価規準】（思・判・表）</b> 表現の特徴を根拠にして、作品から感じたことや想像したことを記述している。</p>
<p>考えを 振り返る</p>	<p>(2) 思考モデルを用いて考えを交流する。(グループ交流→全体交流) 4 本時学習をまとめる。</p> <p>(まとめ) 比べて見ることによって、絵の特徴が分かりやすくなり、想像が広がる。</p>	<p>○ 自分の考えを広げたり深めたりすることができるように、交流を行う。</p> <p>○ 2枚の絵を比べて見ることによって、1枚の絵を見るだけでは気付きにくい特徴（奥行き・構図・形・並び方・色など）を捉えることができたことをふり返り、本時学習をまとめる。</p>
	<p>5 次時の学習について知り、振り返りシートを書く。</p>	<p>○ 振り返りシートを用いて、「作品（表現）の特徴に着目して鑑賞すること」ができるようになったことを実感することができるように、「評価のものさし」を基に学習過程を振り返らせる。</p> <p>○ 次時は、比べて見る見方を使って、自分で絵や立体作品を選び、作品を見て感じたことや思ったことを表す活動を行うことを知らせ、次時への意欲を高める。</p>